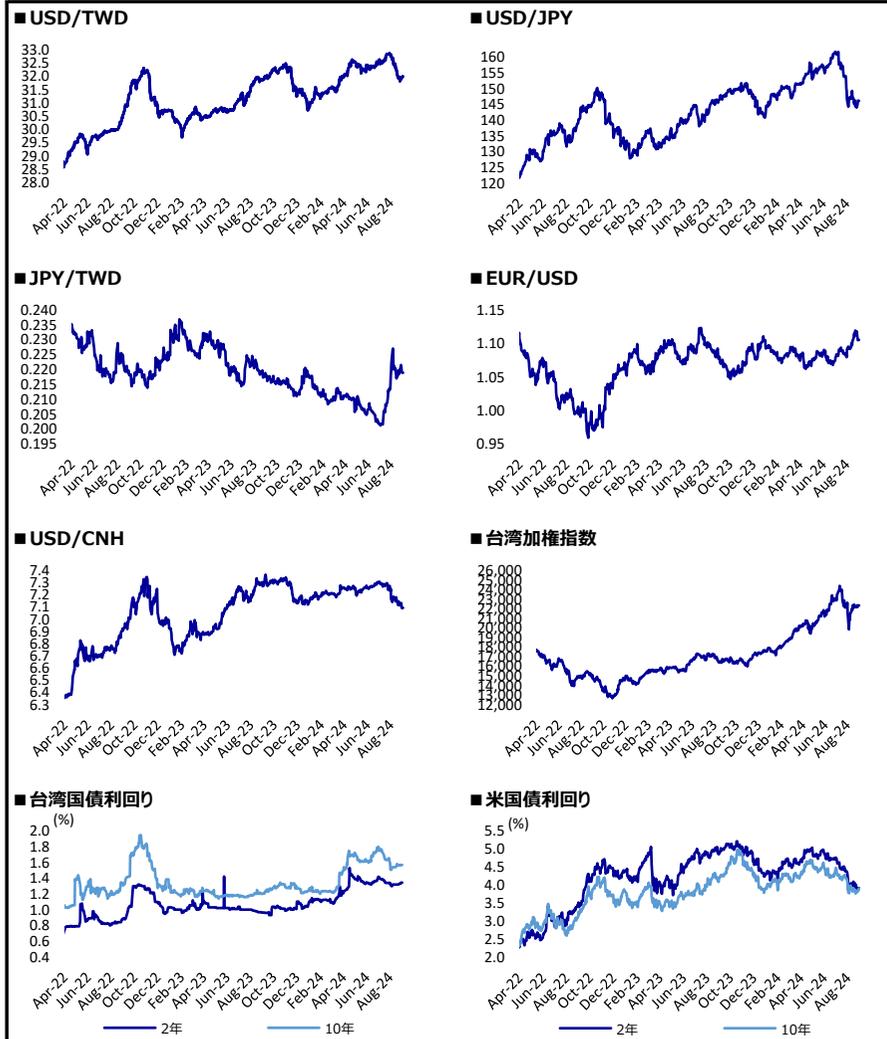


市場動向



先週の市場動向

■USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初8/26は31.910でオープン後、前週末海外時のパウエル議長による講演において利下げに前向きなスタンスが示されていたことを受けて米金利が急速に低下する中、ドル売りが優勢な展開となり一時31.758まで下落。8/27は、前日海外時間に発表された米経済指標が堅調だったことや、米ハイテク株の下落を受けたりスクセンチメントの悪化を背景にドルが買い戻され、31.90台前半まで上昇。8/28は、人民元や円などの下落が進む中、アジア通貨全般に売り圧力が広がった他、海外債券投資資金送金も見られたことで台湾ドル売りが加速し、一時31.995まで上昇。8/29は、米大手半導体企業決算が市場予想を下回る結果となったことを受けて台湾株が下落。一方で輸出業者による外貨売り圧力が強く見られ、ドル売りが優勢な展開となり31.90近辺まで下落。8/30は、外国投資家の資金流出及び米債ETF投資関連のドル買いが見られ、一時32.0台近辺まで上昇。最終的には前週比0.1%ドル安台湾ドル高の31.940で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は583.8億台湾ドル。

■USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初8/26は144.20でオープン後、日米の対照的な金融政策が意識される中、円買いが進み一時143.45まで下落。しかしその後、海外時間に発表された米7月耐久財受注が堅調な結果となったことを受けてドルが買い戻され、144円台前半まで上昇。8/27は、東京時間に発表された日7月サービスPPIが前月比減速していたことを受けて円売りが進み145円近辺まで上昇。その後、海外時間に発表された米住宅価格指数が前月比下落していたことを受けて、ドルが売り戻され144円近辺まで下落した。8/28は、日銀の氷見野副総裁より、金融市場の動向を注視しているとのスタンスが示されると、円売りが進み144円台前半まで上昇。8/29は、海外時間に発表された米第2四半期GDPが市場予想を上回る堅調な結果となっていたことを受けて、ドル買いが進み145円近辺まで上昇した。8/30は、発表された米7月コアPCE価格指数は予想通りの結果となるも、7月個人消費支出が先月分の結果を上回った事を受け、一時146.25まで上昇。最終的には前週比1.2%ドル高円安の146.20で先週の取引を終了。

今週の見通し

■USD/TWD 予想レンジ：31.850-32.100
今週は底堅い推移を見込む。台湾においては経済指標の改善が進むものの、投資資金の流出や海外市場でドルの反発したことを考慮し、しばらく31.90台後半で揉み合いとなるうか。

■USD/JPY 予想レンジ：145.00-148.00
今週は底堅い推移を見込む。米雇用統計を今週末に控える中、しばらくは様子見色が高まり、更なる材料が出てくるまではドルは底堅く推移しそうだ。

今週の予定

9/2 (MON)	米8月ISM製造業景況感指数
9/3 (TUE)	
9/4 (WED)	米7月JOLTS求人数
9/5 (THU)	台湾8月CPI、米8月ADP雇用統計、米8月ISMサービス業景況感指数
9/6 (FRI)	米8月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。